

家庭学習の手引き

小学校の学習は、将来社会人として自立するための基礎となるものです。特に「聞くこと」「話すこと」「書くこと」「計算すること」は、欠かすことのできない「生きるための力」です。

学校では、様々な取組を通して基礎学力の向上を図っていますが、家庭との連携を進めることで、その効果が何倍にも高められます。学校で学習したことをしっかりと身につけるために、また、自ら学ぶ習慣を身につけさせるために、家庭学習の習慣を身につけさせましょう。



1 家庭学習のさせ方

- ① 担任から出る「宿題」を最初にさせてください。
- ② 時間が余ったら、「家庭学習の手引き」の中から選んでさせてください。
- ③ どうしても勉強に飽きてしまうときは、読書やお絵かきなど何でもかまいませんので必ず机に向かわせてください。「机に向かう」習慣が大切です。
- ④ 勉強が終わったら、次の日の準備をさせてください。

2 時間のめやす

低学年 15分から25分以上
中学年 30分から45分以上
高学年 50分から60分以上



3 家庭学習における保護者の役割

① 学習時間の確保

塾、習いごと、スポーツなど、子ども達もいろいろ忙しいと思いますが、短い時間でも「必ず机に向かう」習慣を身につけさせましょう。

「何時から何時まで勉強する」かを、家庭で話し合っ、無理のない時間設定をしましょう。

② 学ぶための環境づくり

例えば、テレビをつけながら勉強しても効果は上がりません。お子さんが落ち着いた環境で学習できるように、家庭で工夫したり、話し合ったりしてください。

③ 声かけ・見届け・励まし

お子さんが学習したものにできるだけ目を通し、声をかけましょう。ほめたり、励ましたりすることで、お子さんはどんどんやる気を出します。1週間に1回はコメントを書いたり、スタンプを押したりなどの見届けをしてください。お子さんの様子を見ながら、時間のあるときは一緒に取り組んでくださるよう、お願いします。



各学年で身につけたい力

習慣づけの1年生

- ① ひらがな・カタカナが読めて書ける。
- ② 助詞「て・に・を・は」を使い分けて文章が書ける。
- ③ たし算・ひき算ができる。
- ④ 80字の配当漢字が全て読めて、8割書ける。
- ⑤ 鉛筆を正しく持って字が書ける。

逃げない子にする2年生

- ① 160字の配当漢字が全て読めて、8割書ける。
- ② 順序よくお話をすることができる。
- ③ 九九がすらすら言える。
- ④ 定規を使って筆算をきれいに書きながら計算できる。
- ⑤ 何時何分の時刻が読める。
- ⑥ 決められた長さの直線を正しく引ける。

分岐点を乗り越える3年生

- ① 200字の配当漢字が全て読め、8割書ける。
- ② 短い詩が暗唱できる。
- ③ 簡単なことわざを知っている。
- ④ 主語と述語の意味が分かる。
- ⑤ わり算ができる。
- ⑥ はかりを使って重さがよめる。
- ⑦ コンパスを使って簡単な図形が書ける。

天と地の差がつく4年生

- ① 200字の配当漢字が全て読めて、8割書ける。
- ② ローマ字を適切に読み書きできる。
- ③ 文と文のつながりを考えて、指示語や接続語を使う。
- ④ わり算の筆算ができ、倍を使った文章題が解ける。
- ⑤ 国語辞典、漢和辞典を正しく使える。
- ⑥ 47都道府県の位置が分かり、正しく書ける。

「10歳の壁」を破る5年生

- ① 185字の配当漢字が全て読め、8割書ける。
- ② 習った漢字を使った熟語が8割書ける。
- ③ 小数のかけ算・わり算ができる。
- ④ 割合・百分率を使った問題が解ける。
- ⑤ いろいろな図形の面積を求めることができる。
- ⑥ 世界の主要な国々の位置を示すことができる。

中学校生活に希望が持てる6年生

- ① 小学校で習った1006字の漢字の全てが読めて、8割書ける。
- ② 小学校で習った漢字の熟語が、8割正しく書ける。
- ③ 分数計算（＋、－、×、÷）ができる。
- ④ 長さ、重さ、かさ、面積、体積の単位と使い方、単位間の関係が分かる。
- ⑤ 歴史上の事件や人物について大体説明できる。
- ⑥ 三権分立など社会用語の説明ができる。